

探究の成果を東北大会で発表

地域資源や素材を使い取り組んだ活動を説明

7年度全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラムちいぶろ！」東北ブロックの発表会が12月21日、東北工業大学(仙台市)を会場に行われ、2年生の5つの班が発表に臨みました。

「ちいぶろ」とは、主体的な探究姿勢などを身に付け、社会の課題解決などの取り組みを行うことで、郷土に愛着をもち新たな価値を創造する高校生の育成を目指す全国的なプログラムです。

生徒は、1年生から取り組んでいる総合的な探究の時間の学習成果をもとに資料を作成。



市産のホウレン草を使って開発したお菓子を発表したスイーツ班

当日は審査員を前に、7分間のプレゼンテーションと、8分間の質疑応答に臨みました。

各班の生徒たち



発表に臨んだ2年生の生徒

は、それぞれのテーマについて堂々と発表。残念ながら全国大会への切符こそ獲得できなかったものの、全班が優良賞を受賞しました。その内容は後日、校内でも発表し、成果を共有する予定です。

卒業前に大人の身だしなみをマスター

卒業を控えた3年生が、身だしなみやスーツについての基礎知識、ネクタイの結び方を学ぶ講習会を1月15日、紳士服専門店の職員を講師に招き本校で行いました。講習会は、進学や就職時など、卒業後はスーツを着用する場面が多くなることから、初めて開いたものです。

男子生徒は、制服に使用しているワンタッチ型のネクタイとは異なるネクタイの結び方、締め方に戸惑った様子でしたが、形良く結べるようになるまで何度も練習していました。



指導を受け、結び方を繰り返し練習する本校生徒

自分たちの生活に大切な衣・食・住を実践的に学ぶことで、将来の選択肢が広がるを考え、平高の家政科学科を選びました。

平高で頑張っていること

家政科学科では検定や実習が多いので、その度に行える限りの力を発揮できるように授業に臨んでいます。

また「はちたん」で開発した料理や商品の研究を文化祭で展示・出店する「はちたんマルシェ」の企画に取り組みました。

平高入学の理由・当初の目標



学校で取り組む多くのことにたくさんの達成感を感じます

家庭クラブ会長

鈴木 遼斗さん

(家政科学科2年：西根中出身)

※1: 総合的な探究の時間の授業で取り組んだ、市内の魅力を発見しPRする取り組み



小学生に勉強を教える「寺子屋ボランティア」に取り組む遼斗さん

タイパとコスパで選ぶなら、平高はすぐ良い学校だと思います。就職や進学のほか、幅広い面でサポートしていただけ。それが平館高校です。

伝えたい平高の魅力

検定など取り組むことは多いですが、その分の達成感があり、それが楽しさでもあると感じています。

学校生活の楽しいところ

家庭クラブでは、地域の伝統文化である紫根染の継承活動に力を入れ、技術の習得と普及に取り組んでいます。また、授業で学んだことをベースに、自分なりの課題に取り組むホームプロジェクトでは、中学生になった弟の食生活改善をテーマに、酒粕を使った健康おやつについて研究し、県大会で発表するなど、日常生活に根ざした活動に取り組んでいます。

家庭クラブでの活動

※2 タイパ:かけた時間に対する成果・満足度。コスパ:かけた費用に対する成果・満足度

